

校歌

作詞 芳賀 秀次郎
作曲 藤澤 孚

一、虹あり われら 相見るところ
希望は 彩なす 天のまほら

ああ わが鳥海
われらを 守れり

こぞりて 究めん 真理よ 英知よ
かがやく 青春 われらが母校

二、旗あり われら 相よるところ
光は みなぎる 青き国原

真室の 河風
われらを 抱けり

さながら 磨かん 愛よ 信よ
かがやく 青春 われらが母校

三、栄あり われら 生き抜くところ
行くべし まことの 道はひとすじ

歴史は まさしく
われらを 呼ばはん
しんじつ 拓かん 正義よ 平和よ
白亜の殿堂 われらが母校



「中」を囲む三つの円は、わが真室川町の郷土を示し、連帯の輪である。十字に広がる4つのひし形は星のように高く輝く真中の心意気を示している。また、それらのひし形かペン先に似ているのは、勉学に励む努力の象徴である。中の黒いかじのような部分は真中生の団結と高い志を統合し、大地にしっかりと足をふんばり、郷土を担う若者の情熱を表し、それらをしっかりと調和させている。

校章

壁画



樹々の詩

ふりそぐ 朝の光に
樹々は 目覚める
今ぞ 生命の時
新たな 時代の
はじまり

この「樹々の詩(じ)」の詩は、南側校舎棟の東面、正面玄関のすぐわきに作られた壁画に、統合創立時刻まれたものである。

真室川町は自然環境に恵まれた森林の町である。朝の光を受け、枝葉を伸ばしたくましく成長していく樹々。この樹々のように、新しいこの校舎で、生徒一人一人が教育という明るい太陽の光を受け、知力・徳力・体力を養い、互いに協力し、切磋琢磨しながら太く、大きく成長してほしいという願いが込められている。

真室川中学校応援歌

伊藤 隆行 作詞
矢部 暁 作曲

一、若葉が燃えて翼を広げ
友と触れ合い汗ばむ姿
進め 団結 力の限り

高く輝く真中の我ら
今 戦いの峰に立つ

二、情熱燃やし気迫に満ちて
若き血潮に輝く姿
進め 団結 希望に溢れ

夢を誓った真中の我ら
今 戦いの峰に立つ

三、気高く燃えて伝統守り
勇気貫く雄々しい姿
進め 団結 拳を掲げて

台地踏ん張る真中の我ら
今 戦いの峰に立つ